

第5回 トレーナースキルアップセミナー

● 開催報告 ●

1. セミナー開催情報

テーマ：テキスト第10章「放射エネルギー」に関する学習会

日時：2016年2月5日(金)

自由参加型勉強会 10:00~12:00

セミナー 13:00~17:15

場所：東京トラック総合会館

参加者：25名

内訳	トレーナー	9名	オブザーバー	1名
	安全教育専門員会	13名	事務局	1名
	安全専門委員会	1名		



2. プログラム

午前の部 自由参加型勉強会

i) PBET/CRI とテキストの関係性に関する勉強会：

石川委員

ii) テキスト R2.1と R3.0との差分についての説明：

塩出委員

午後の部 セミナー

i) 開催の辞：鈴木委員長

ii) セミナーの概略説明：内田委員

iii) 特別講演：

ソニーセミコンダクタ株式会社 三條勝也様

iv) 放射エネルギーによる事故事例の紹介：

渡辺委員（安全専門委員会）

v) “第10章放射エネルギー” 解説：上岡オブザーバー

vi) パネルディスカッション：

上岡オブザーバー、松田委員、西山委員、鈴木委員長

vii) グループディスカッション：西澤委員

viii) 事務局からのお知らせ

ix) 閉会の辞

x) 懇親会

3. 自由参加型勉強会（午前の部）



SEAJ 推奨安全教育のテキストも初版を発刊してから歳月が経ち、発刊時のコンセプトや作成メンバーの思い入れが段々薄れてまいりました。

そこで今一度基本に立ち返り、「創刊時はどういう思いで当時のメンバーがテキストを編纂したか」、「基本コンセプトとしたPBETやCRIの考え方をどうテキストに取り入れたか」、当時を知る石川委員より説明がありました。

4. 開催の辞

鈴木委員長による開催の辞（左）。

5. セミナーの概略説明

内田分科会リーダーによる、セミナーのプログラムと目的の説明（右）。



6. 特別講演

ソニーセミコンダクタ株式会社 熊本総務部 三條勝也様より、自社における「安全衛生マネジメントシステムのリスクアセスメント」についての取り組みに関して講演していただきました。



取り組みに至った背景として、設備のブラックボックス化が進んでいることや、担当者間の「知の伝承」「技の伝承」「基本の伝承」が上手くできていないという説明があり、その後、安全に関する考え方の解説、そしてそれらをベースにした実際の取り組み例をご紹介いただきました。特に実際の取り組み例は具体的にプロセスも含めて丁寧に説明していただいたので、非常に判り易かったと思います。

7. 放射エネルギーによる事故事例の紹介



安全専門委員会 渡辺委員より放射エネルギー関連の事故事例とその事故事例を解析していく手法の紹介がありました。解析手法も様々な手法があるという解説の後、M-SHELL 手法を使用している解析例を示しました。

結びの言葉として、「対策が決まったら、確実に実践することが大切です」「トレーナーの皆様が先頭に立って安全な職場を実現し、半導体業界から災害を発生させないことを祈念します。」との思いが伝えられました。

8. “第10章放射エネルギー” 解説

SEAJ 推奨安全教育テキスト R3.0の章担当だった上岡オプザーバーより、

「第10章放射エネルギー」に関して、今回の章構成の狙いや、解説が必要と思われる部分に関する詳細情報の提供がありました。まず、改訂ポイントや改訂時の背景の説明がされ、大きく変更になったページそれぞれの変更理由の丁寧な説明があり、次に、講習時に強調して欲しい点や工夫して欲しい点を豊富な具体例を提示しながら解説されまし

た。又、全体を通して担当者ならではの熱い思いも伝えられました。



9. パネルディスカッション



上岡オプザーバー、松田委員、西山委員、鈴木委員長をパネラーに、石川委員が司会を務めパネルディスカッションを実施しました。

半導体製造工程を確認しながら、どの工程で注意すべき「放射エネルギー」が存在するか、という話から始まり、出力を問わなければどの装置の中にも「放射エネルギー」は存在する。というコロンブスの卵的な考え方も示されました。

10. グループディスカッション

西澤委員司会進行のもと参加トレーナーが2組に分かれてグループディスカッションを行ないました。それぞれのグループに違う課題が与えられ、短い時間の中でそれぞれの角度から真剣に議論していました。同時にトレーナーと

しての悩みなど情報交換もこの時間に行なわれました。トレーナーの皆さんはそれぞれ何かしらヒントを得た時間となったようです。



■ グループ討議の進め方(2)

3. パネルディスカッションの中で紹介した事例

◆ レーザー光線編	担当：グループA
◆ 紫外線編	
◆ 赤外線編	担当：グループB
◆ 電磁放射線番外編	

の4つの例を2例ずつ、

- ◆ 事故が発生した根本原因は何で（どこに）あったと考えられるか？
- ◆ 再発防止のためには、どの様に対策（施策）すればよいと思うか？

提案してください。時間余裕があれば、他方のグループ分も検討してみてください。

4. 放射エネルギーの危険性を受講者に伝える上で、

- ◆ 最も強調すべきだと考えるポイントとその理由
- ◆ テレビや新聞などで公開されている（既知の）情報で効果的だと思う事例と、その活用方法

について討議し、他方のグループに提案してください。

2016/02/05 トレーナースキルアップセミナー



11. 事務局からのお知らせ

事務局からは、2015年度の安全教育専門委員会の活動の概要と、現在のトレーナー数の報告等がありました。

12. まとめ

今回で第5回となる本セミナーですが、今回はテーマを第10章「放射エネルギー」としました。

本章は2014年のテキスト改訂で大きく変更になった章の1つであり、我々装置メーカーの中でも縁が薄いところがあったり、メーカー間でも“温度差”があるところでもあるため、トレーナーの方々が講習を実施する際に、何かヒントとなるような情報が提供できたのではないかと自負しています。

今後もトレーナーの皆様がSEAJ推奨安全教育を推進する際に役に立つ情報を提供できればと思っています。

以下、今回参加戴いたトレーナーの方々より寄せられたアンケート結果を、いくつかご紹介いたします。

- 身近な事例を入れ、皆さん説明して頂いたので、わかりやすく共感できました。
- 年1回とはいえ充実した内容で非常に勉強になりました。
- PBET、CRIの考え方は理にかなっていると感じました。通常の社内教育は実施すればOKという講座が多いので考えさせられました。
- 身近な所として、放射エネルギーの話をする事で今後の研修がしやすくなる感じた。
- トレーナーとしてのスキルが一段とついた感じがします。がまだまだ学ぶべきものが多くあります。
- 現場でのリスクアセスメントの重要性。講師に求められる要件について。
- 放射エネルギーが事故につながる可能性が高いことが認識できたこと。
- 重要ポイントの深掘りと、分かりやすい（現場に直結した）教え方の必要性。
- やはり放射エネルギーの説明は苦勞しておりますので、身近な例題を取り入れていきます。センサー類もレーザーの一部等。
- 身近な事例を元に教材、カリキュラム構成がより深い理解を得られる。

(安全教育専門委員会 トレーナースキルアップ分科会
しおで 塩出 広)